

2016年3月31日
 東京大学先端科学技術研究センター
 ソフトバンク株式会社
 株式会社エデュアス

障がい児の学習・生活支援のための 携帯情報端末活用事例報告書を発行

～「魔法のプロジェクト2015～魔法の宿題～」協力校での活用事例をまとめ、ウェブ上で公開～

東京大学先端科学技術研究センター（所在地：東京都目黒区、所長：西村 幸夫）とソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO：宮内 謙）、ソフトバンクグループで教育事業を担う株式会社エデュアス（本社：東京都港区、代表取締役社長：藤井 宏明）は、2015年4月より1年間実施した、障がい児^{*1}の学習・生活支援を行う事例研究プロジェクト「魔法のプロジェクト2015 ～魔法の宿題～」(以下「魔法の宿題プロジェクト」)^{*2}の成果をまとめた携帯情報端末活用事例報告書を作成しました。本報告書をウェブ上で公開し、障がい児の学習・生活支援における携帯情報端末の具体的な活用事例やその効果を紹介いたします。

■ 「魔法の宿題プロジェクト」 携帯情報端末活用事例報告書について

1. 概要

携帯情報端末により、障がいのある子どもたちの学習や生活をどのように支援できるのか、「魔法の宿題プロジェクト」協力校が取り組んだ活用事例をまとめています。

2. 入手方法

本事例報告書は、「魔法のプロジェクト」サイトの以下URLよりダウンロードできます。

<https://maho-prj.org/?p=1048>

3. 紹介事例

本事例報告書で紹介している、障がいに合わせた携帯情報端末の活用事例は以下のとおりです。そのほかの事例については、事例報告書をダウンロードしてご確認ください。

< 肢体不自由などがあり、気管切開を受けた子どもへの活用 >

肢体不自由と気管切開などにより、言葉を発することができない児童が、タブレットなどを活用することで意思を表出できるようになった結果、児童の物事に対する理解度が想定以上に高いことが分かりました。通常の小学校での学習やコミュニケーションは難しいと想定されていましたが、特別支援学級で教科学習を受け、目覚ましい成長を遂げました（小学1年生）。

< 知的障がいのある子どもへの活用 >

重度の知的障がいにより、快・不快などの感情を表現することが難しい生徒の睡眠状態を専用のアプリケーションで記録し、日常生活と照らし合わせることで、寝具、食べ物、活動などの何が睡眠の質に影響を及ぼすのかを先生や家族が把握できるようになりました（中学1年生）。

東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンク株式会社、株式会社エデュアスは、今後も携帯電話やタブレットをはじめとした携帯情報端末の活用により、障がい児の社会参加の機会促進を目指していきます。

- ※1 認知やコミュニケーションに困難のある障がい児、自閉症、読み書き障がい、知的障がい、肢体不自由、聴覚障がいなどを含みます。
- ※2 「魔法の宿題プロジェクト」の開始については、2015年1月21日にプレスリリースを実施しています。

- SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、本プレスリリースに記載されている会社名および商品・サービス名は各社の登録商標または商標です。